

3 カキ新品種「早秋」の特性

ねらいと成果

兵庫県のカキ栽培（栽培面積231ha：1999年）は神戸市や養父郡（八鹿町）、津名郡（北淡町、五色町）などを中心に行われている。品種は「富有」を中心として、早生の「西村早生」などの数品種を補完的に導入している場合が多い。「西村早生」は種子の有無によって甘渋性が左右される不完全甘ガキで、品質の安定性に欠け、食感的にも肉質が粗い。また、同じ早生の「伊豆」は完全甘ガキであるが、へたすき果の発生が多いなど欠点があるため、早生の優れた甘ガキ品種育成への要望が強い。

そこで、果樹試験場カキ・ブドウ支場（現農業技術研究機構果樹研究所ブドウ・カキ部）が育成した「早秋」の地域適応性と特性調査を行った。その結果、「早秋」は食味と日持ち性が優れ、へたすき性がなく、甘渋性が安定した完全甘ガキの早生品種として有望で、本県でも適応性が高いと認められた。

内 容

「早秋」は系統名カキ安芸津13号で、中央農業技術センター（加西市）において1996年から高接ぎにより特性調査を行った。全国29か所の試験研究機関と共同で調査検討を進めた結果、早生の完全甘ガキとして有望と認められ、2000年10月に「早秋（そうしゅう）」と命名された。

樹勢は「伊豆」よりも強い中程度で、樹姿は「富有」と同じ開張性である。雌花の着生は多く、雄花の着生はない。

果実は完全甘ガキで、収穫盛期が9月下旬～10月上旬の早生で「西村早生」とほぼ同時期である。果皮色は赤く、カラーチャートで6～7になり、着色良好である。果形はやや乱れやすく、果頂部が深く

へこんだり、浅い側溝が生じやすい。果実重は年次変動があるものの200g前後で「西村早生」や「伊豆」と同程度、「富有」よりやや小さい。糖度は15程度で、肉質はやや軟らかく緻密で、果汁が多く食味は良好である。日持ち性は12日程度で、早生品種としては比較的長い。へたすきの発生はきわめて少なく、汚損果はやや発生するがその程度は小さく、「西村早生」や「伊豆」に比べて優れている。

県内における「早秋」の地域適応性は高く、「富有」が渋残りなく栽培できる地域で栽培が可能である。また、同時期に収穫される「西村早生」に比べて、甘渋性が安定しており、着色、食味ともに良好で、収量性にも問題ないことから、その代替品種として期待できる。

普及上の注意事項

「早秋」は単為結果性、種子形成力とも弱く、早期落果がやや多い傾向があるため、授粉樹の混植等種子形成を促す管理が必要である。

福井 謙一郎（中央農技・園芸部）

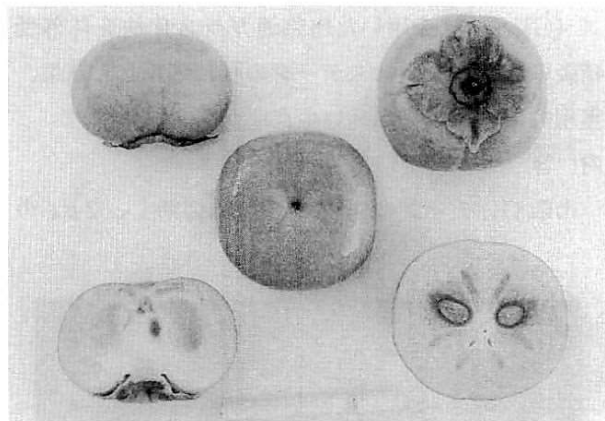


写真 カキ新品種「早秋」

表 カキ新品種「早秋」の生育及び果実特性(1998～2001)

品種名	展葉期 (月/日)	開花盛期 (月/日)	収穫盛期 (月/日)	果実重 (g)	果色 ¹⁾	糖度 (Brix)	含核数 ²⁾	日持ち 性(日)	へたすき(%) ³⁾		汚損果 ⁴⁾ (%)
早秋	4/11	5/21	9/30	206	6.5	15.5	2.0	12	0.6	2.2	14
伊豆	4/12	5/22	10/12	194	5.4	15.3	3.4	11	3.9	3.6	28
富有 ⁵⁾	4/13	5/23	11/13	227	6.0	16.5	4.3	21	0.0	6.3	16

1) カラーチャート数値

2) 種子数/果

3) へたと果実の接合部にすき間ができる障害

4) 果実表面が黒変する障害

5) 富有は1998年～2000年の平均値